

トルコ革命とパレスティナ分割

今回学ぶこと

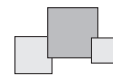
西アジア・中東地域では、15世紀以来、オスマン帝国が広大な地域を支配していた。20世紀初め、第一次世界大戦に敗れたこの帝国の領域で起こった出来事のうち、次の3点を学ぶ。①オスマン帝国の滅亡と国民国家トルコの誕生、②アラブ人の独立運動と英仏によるアラブ地域の分割統治、③ヨーロッパ各地からパレスティナへのユダヤ教徒の大量移住とパレスティナ＝イスラエル紛争の経緯。

調べておこう・覚えておこう

- 現代の西アジア・中東の地図と100年前の20世紀初めの同じ場所の地図を比べ、どこがどのように変わっているのかを確認しよう。
- 帝国と国民国家は、それぞれどんな政治的、社会的特徴を持っているのか。理解しておこう。
- エルサレムは、ユダヤ教徒、キリスト教徒、ムスリム（イスラーム教徒）にとって、それぞれなぜ重要な場所なのかを理解しておこう。

オスマン帝国からトルコ共和国へ ～国民国家の誕生～

第一次世界大戦で敗れたオスマン帝国はイギリスやフランスなどの連合国軍によって分割占領される。オスマン帝国の軍人だったムスタファ・ケマルは、祖国滅亡の危機を救うため、オスマン帝国政府にかわってトルコ人の国を造り、自らがその政権を担うことを宣言した。人々の熱烈な支持を受けたケマルは、1923年にオスマン帝国のスルタンを廃し、国民国家トルコ共和国の樹立を宣言した。以後、彼はフランスをモデルとして、政教分離、男性のトルコ帽、女性の顔を覆うベールの禁止、アルファベット、太陽暦、メートル法の採用などの急速な西洋化政策を進めた。現代のトルコでも、ケマルは祖国建設の英雄として多くのトルコ人から慕われている。



西アジア・中東の植民地化

第一次世界大戦でオスマン帝国と戦っていたイギリスは、オスマン帝国の領域の中で政府に反乱を起こさせるため、アラブ人の有力者であるメッカの支配者、フサインと交渉した。フサインは、戦争に勝利したらアラブ人独立国家の樹立を手助けするとのイギリスの約束を得て、オスマン帝国への反乱に乗り出す。このときにイギリスの軍事顧問としてアラブ人たちと一緒に戦ったのが、「アラビアのロレンス」である。

アラブ軍はダマスカスを占領して臨時政府を樹立、戦争は連合国側の勝利で終わるが、オスマン帝国の領土分割をフランス・ロシアと別に約束していたイギリスは、フサインの望むとおりのアラブ人の独立国家建設には直ちには応じなかった。アラブ人の住む地域は分割され、イギリスとフランスの委任統治領となった。

ユダヤ国家とパレスティナ問題

19世紀にヨーロッパで国民国家建設の動きが強まると、それまで各地に散らばって住んでいたユダヤ教徒の間でも、「父祖の地」であるパレスティナに自分たちの国を持つことを目指すシオニズムの運動が起こった。第一次世界大戦後、ユダヤ人の独立国家建設の支援を約束したイギリスの委任統治領となったパレスティナでは、世界各地から移住してきた多くのユダヤ教徒とその地に住んでいたアラブ人との間で、さまざまな摩擦と争いが生じるようになった。

第二次世界大戦でナチスによるユダヤ人虐殺が起こり、さらに多くのユダヤ教徒がパレスティナに移住すると、1947年に国連がパレスティナをユダヤ人とアラブ人の土地に分割する統治案を可決し、イスラエルの建国を認めた。これに反発した周辺のアラブ諸国とイスラエルとの間で戦争が起こるが、その結果はイスラエルの勝利に終わった。その後、イスラエル領となった地域に住んでいて周辺諸国に逃れたアラブ人(パレスティナ難民)やアラブ諸国などのアラブ系の人々とイスラエルとの間で、簡単には解決できない複雑な対立と抗争が今日まで続いている。

